



ききょうだより

山県市立
美山小学校
第10号
令和元年
12月25日

====教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』====

今年も、これまでのところ比較的あたたかな冬になっています。地球温暖化は確実に加速している気がします。2学期も明日で終了、どの子も、人として大きく成長したと感じています。

大晦日には、除夜の鐘を聞きながら一年を落ち着いてふりかえり、「来年は」という決意をもちたいものです。決意すれば必ず実現するわけではありませんが、決意もなく希望が叶うはずはありません。夢や希望の大きさや種類は人それぞれ違いますが、実現に向けての努力の貴さは同じです。

いじめはなぜなくなる？その1

先月23日の「ひびきあい活動」授業参観ありがとうございました。多くの保護者にいじめに関する道徳の授業を見ていただきました。感想を読ませていただくと、「いじめがあったら放っておいてはいけない」等、親子で話し合いをもった家庭が多くあった事が分かり、ありがたいと感じています。

今年も学校に関するニュースが色々ありました。岐阜市では中3生徒の自死があり、いじめが関係しているとして現在も調査中です。神戸市では教員間のいじめが報道されました。つい先日、某テレビ番組で「大人のいじめ」「ネット上での炎上」が取り上げられていました。対応策も話題にされ、共感できる考え方もありました。いじめが社会問題化してもうすでに30年以上になります。この間多くの不幸な出来事があり、対策や教育が見直されてきました。なかなか決定的効果が見いだせない中、大津市の事件をきっかけに、国は「いじめ防止対策推進法」を作りました。平成25年のことです。つまり、「いじめはダメって法律で決まっているんだ」ということです。

なぜ、「いじめ」はなくなるのでしょうか。以下に河村の私見を述べたいと思います。

①いじめは見えない(見えにくい)

いじめを受けた子は、家族に心配かけたくないとか、いじめられることが何となく恥ずかしいことといった誤解のため、「私にいじめられてる」と訴えにくい感情をもつことが多いものです。加害者が多いとその気持ちはさらに膨らみます。暴力や金品がかかわると初めて他人にも認識できるようになります。それでも、加害者は見えないようにいじめます。はじめは「悪口」「仲間外れ」といった心理的差別がほとんどです。け

がをして、出血したり腫れたりすれば目立ちますが、心の痛みは外から分かりません。だから気づきにくく、問題になりにくいのです。

もし、心配なことがあったら美山小の先生に教えて下さい。私達は悲しい思いの子を放っておくことは決してありません。すぐに解決に向けた一歩を必ず踏み出します。(次号に続く)

美山小の底力2 松井先生



松井先生は、6年1組の担任、数学が専門です。今年度美山小に赴任しました。

先日算数の授業を参観しました。琵琶湖のおおよその面積を求める授業でした。方眼や三角形を使って面積を求めます。以前、円の面積を方眼を使って求めた学習を想起させ、児童に求め方の見通しをもたせた上で各自が解いていきます。全員が自分のやり方で解答できました。その後、班で交流し自分とは違う解き方を学びました。全体交流ではハンドサインで児童の理解度を確認しながらテンポよく授業が進みます。不明な点を互いに質問できる学級の雰囲気もあり、算数の学力定着の土壤ができていました。学力テストの結果が楽しみです。

松井先生は、児童会担当でもあります。児童会は会長の長野春菜さんをリーダーに、ききょう活動充実に向けて努力しています。毎日の忙しさから、全体として意識が薄れる時もあります。そんな時にリーダーをやる気にさせ、活動の成果を見える化する工夫ができる松井先生は美山小の頼もしい底力の一人です。(河村 一彦)